



セリ才便り 八月号 - 2024 -



残暑御見舞申し上げます。皆様夏バテは大丈夫
 でしょうか？私の方は不覚にも花鏡が紫指を叩きつけおぼろ
 近況が痛い目にあそました。さういふにもう大丈夫さうです。
 さて健康寿命を運やのに過すおぼろは心持ちによるも
 決まるところがあるさうです。苦難や試練をどう受止め
 るか。御先祖からの宿願の、未来への税金？とらえ方も
 いろいろあり。今こそ大切でありのままを受け入れて感謝して
 生きていくことが、曲星の一番を送るのに大切が考えてやても
 ゆかりない時はとらゆらぬ心で考え直さず、存心して生きて
 ヒーローさういふこところをどうしたらぶジテいられるか？が
 「物カ」は、苦いものばかりなくをむくむむや紫指と表裏の
 関係のさうな後か、さういふ。例えは山登りの途中に
 幻度も限界の度に視線を足元から顔を上げた時に見え
 る絶景は感動という力を得て歩みを進めて行けた
 のと似て、さかもいれまてん。山を降りるの、イヤ登るの、さか
 コロチ福が旅立ちの進んだ志打けんまの言葉に、成切して
 ソ子人で物カをいそがしい人はソ子人。ソ子人からさうに活躍し
 続けて、善人はほんの些事であれ並みならぬ物カをひたむき
 に創る、土風を志すか、もろくも途中で善人さうである
 生前語をいそがしい、立派にやほくも自分らしくコツコツ
 「天職とはお合らうもの、はなはだ、自らつくり出すもの、さう
 とら、稲穂と夫死の言葉、胸に人月もスゴトです。
 焼中つく暑さが続き、初秋の月はすくなく、ソ子人の
 お祭り、サビ火も、お祭りで、ご自愛の上お返す、さ
 感謝をいそがしい、敬具

令和六年八月五日
 松本幸子



夏季休業のご案内 8月13日(火) ~ 8月16日(金)

